

株主メモ (証券コード：2911)

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月に開催

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

公告方法 電子公告
当社ホームページ <http://www.asahimatsu.co.jp/> に掲載

単元株式数 1,000株

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

株主様へのご優待 3月31日現在で、1,000株以上ご所有の株主各位に対し、3,000円相当の凍豆腐、生みそずい(即席みそ汁等)、当社製品の詰め合わせを贈呈いたします。

【株式に関するお手続きについて】

1. 住所変更、単元未満株式の買取などのお申し出

証券会社に口座のある株主様 ⇨ 株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

特別口座に口座のある株主様 ⇨ 特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

2. 未受領の配当金の支払いのお申し出

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

【特別口座について】

株券電子化移行時点で「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)に預けられていない株主様の株式については、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にて口座(特別口座)を開設しております。特別口座についてのご照会等の各種お申し出は、上記連絡先をお願いいたします。

第66期中間(第2四半期)報告書

平成27年4月1日 ▶ 平成27年9月30日



株主の皆様へ



代表取締役社長 木下 博隆

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに第66期中間（第2四半期）報告書（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）をお届けいたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策等を背景に、企業収益の向上・雇用情勢の改善など緩やかな回復基調にあるものの、中国経済の減速懸念や、個人消費持ち直しの動きに遅れが見られ、先行き不透明な状況で推移しました。

食品業界では、依然として企業間競争は激しく、円安による原材料価格高騰への対応は充分には進まず、更にはフードディフェンスを含めた食の安心・安全への取り組み強化が求められております。

このような状況の中、当社グループは引き続き売上原価の高騰分を販売価格へ転嫁してまいりました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は45億5千6百万円（前年同四半期比4.8%増）となりました。食料品事業セグメントの内訳としては、凍豆腐では、当社グループ独自の新たな製法による減塩タイプの凍豆腐を積極的に拡販してまいりましたほか、当社食品研究所が長年研究を行い発表した論文などを基に、余分なコレステロールを排出する効果があるレジスタントタンパクを多く含む食品として普及活動を行い、凍豆腐市場の維持拡大に努めてまいりました。また、凍豆腐を粉末状に加工した粉豆腐がメディアに取り上げられたことや、前事業年度より継続してきました原材料価格高騰分の転嫁が定着し、販売量回復の兆しが出てきたことから売上高は20億2千4百万円（前年同四半期比17.0%増）と大きく増加いたしました。加工食品では、袋入りタイプ、カップ入りタイプともに新商品を継続的に発売してきたほか、主力となるカップ入りタイプの生産設備の増強を図るなどを実施して参りましたが、低価格競争が激しく販売数量は減少し、売上高は16億8百万円（前年同四半期比11.0%減）となりました。その他の食料品では、医療用食材などが堅調に推移しており、売上高は9億2百万円（前年同四半期比13.8%増）となりました。

利益面では、円安などによる製造原価の上昇や販売数量の減少による限界利益額の低下、製造設備の取得とそれに伴う減価償却費の計上などもありましたが、価格改定や生産体制の改善などの施策の効果がでてきており営業利益は、5百万円（前年同四半期は2億8千1百万円の損失）、本年8月18日に決定した製品自主回収の費用発生もあり経常損失は、0百万円（前年同四半期は2億6千7百万円の損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、2千万円（前年同四半期は4億8千9百万円の損失）と改善いたしました。

中間（第2四半期）連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	※ご参考 前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,989,403	1,969,914
受取手形及び売掛金	1,867,907	1,706,644
たな卸資産	1,067,504	1,066,411
繰延税金資産	884	2,238
その他	81,442	113,165
貸倒引当金	△5,224	△5,049
流動資産合計	5,001,916	4,853,323
固定資産		
有形固定資産	3,518,945	3,596,098
無形固定資産	446,116	418,502
投資その他の資産	230,422	244,409
固定資産合計	4,195,484	4,259,010
資産合計	9,197,400	9,112,334
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	762,289	742,195
短期借入金	231,134	228,669
リース債務	4,777	28,238
未払金	412,541	313,027
未払法人税等	17,468	20,171
賞与引当金	25,942	62,934
設備関係支払手形	41,002	123,976
繰延税金負債	2,060	4,334
その他	176,166	176,453
流動負債合計	1,673,383	1,700,000
固定負債		
長期借入金	655,410	557,045
リース債務	9,913	107,890
繰延税金負債	94,811	94,140
退職給付に係る負債	315,399	244,695
資産除去債務	47,720	47,931
その他	8,100	8,100
固定負債合計	1,131,355	1,059,803
負債合計	2,804,738	2,759,803
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,617,844	1,617,844
資本剰余金	1,632,423	1,632,423
利益剰余金	3,209,875	3,161,786
自己株式	△128,221	△128,764
株主資本合計	6,331,922	6,283,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,385	18,066
繰延ヘッジ損益	4,221	△830
為替換算調整勘定	143,197	155,125
退職給付に係る調整累計額	△155,332	△153,801
その他の包括利益累計額合計	11,471	18,560
非支配株主持分	49,268	50,679
純資産合計	6,392,662	6,352,531
負債純資産合計	9,197,400	9,112,334

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

中間（第2四半期）連結損益計算書

(単位：千円)

科目	※ご参考 前第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)
売上高	4,346,029	4,556,299
売上原価	3,483,003	3,385,545
売上総利益	863,025	1,170,754
販売費及び一般管理費	1,144,878	1,165,514
営業利益又は営業損失 (△)	△281,852	5,239
営業外収益	16,755	17,219
営業外費用	2,717	22,927
経常損失 (△)	△267,815	△468
特別損失	214,998	4,272
税金等調整前四半期純損失 (△)	△482,813	△4,740
法人税、住民税及び事業税	6,104	14,517
法人税等調整額	931	1,282
四半期純損失 (△)	△489,849	△20,540
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△268	86
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△489,580	△20,627

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

中間（第2四半期）
連結キャッシュ・フロー計算書

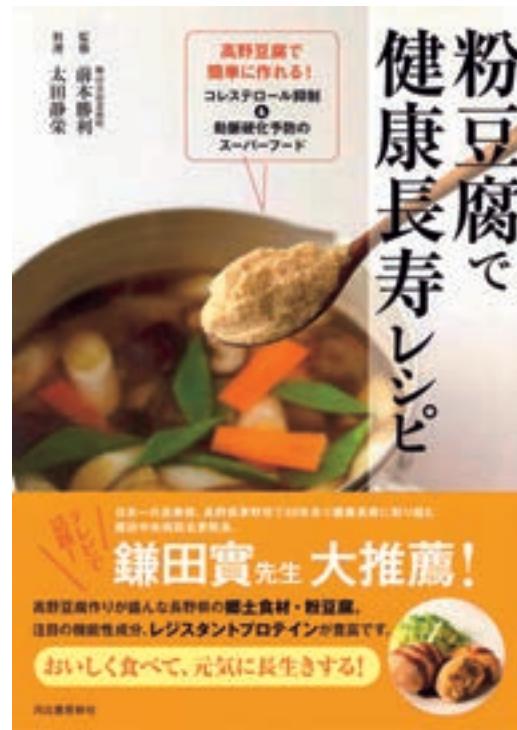
(単位：千円)

科目	※ご参考 前第2四半期 連結累計期間 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△132,008	243,639
投資活動によるキャッシュ・フロー	△515,600	△171,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	797,668	△138,958
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,550	△2,229
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	145,508	△68,795
現金及び現金同等物の期首残高	825,931	834,373
現金及び現金同等物の四半期末残高	971,439	765,578

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

「粉豆腐」が注目されています！



2015年は、例年になく「こうや豆腐」が各媒体にて取り上げられる機会が多くなっております。長野県が、長寿日本一になったこともあり、食からの健康寿命の改善に関連し、こうや豆腐の中でも「粉豆腐」に注目が集まりました。

粉豆腐とは、その名のとおりに、こうや豆腐を粉末状にしたものです。こうや豆腐は良質なタンパク質の他、鉄分、カルシウムなど様々な栄養素を摂取できるスーパー食品で、粉豆腐は、おからのように炒り煮にしたり、ハンバーグやカレーに混ぜたり、揚げ物の衣にしたりと手軽にバランスの良い食事を楽しむことができます。

この粉豆腐のメニューを紹介した「粉豆腐で健康長寿レシピ」が、当社と共同でこうや豆腐の機能性について研究している輝山会記念病院の医師である前本勝利先生が監修のもと発行されました。長野県が長寿日本一になった要因の一つの「食生活の改善」「減塩運動」を推進してこられた諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生からも推薦を頂いております。

また、この本と一緒に粉豆腐が、阪急電鉄梅田駅の真下にあり、圧倒的な地の利で西日本でナンバーワンの売上を誇る書店である紀伊国屋梅田本店にて販売されました。食品が本屋さんで売られるのは珍しい事ですが、売り場は違和感なく華やかなものとなりました。

粉豆腐は、もともと長野県の南信地区での消費が多く、全国で知名度がある商品ではありませんでしたが、現在では、クックパッドなどのWebサイトでも多くのレシピが公開されており、弊社通販サイトでも購入できます。今後も引き続き「粉豆腐」の利用法を探求しながらこうや豆腐市場の拡大に繋げてまいります。

「地域産業創生」での取り組み

長野県の南信地区では、地域に根ざした地場産業を軸とした地域ぐるみの産業振興対策の必要性から長野県、市町村、業界団体が一体となった「南信州・飯田産業センター」が設立されております。当社は、設立時より参画しており、その活動の一環として飯田下伊那地域の民間企業や行政、農業、医療機関、大学などの連携により健康長寿社会を支える新たな地域産業を目指す団体として、「飯田メディカルバイオクラスター」があります。

クラスター内には「食品系」と「医療機器系」の2つの分科会があります。食品系の活動計画の一つとして、地域特産品を活用した高齢者向け食品の開発を掲げており、今回地域特産品である「こうや豆腐」を用いた商品の発売を開始いたしました。

この商品は、弱い力でも噛める「やわらか常食タイプ」、歯ぐきでもつぶせる「きざみ食タイプ」、舌と上あごでつぶせる「ミキサー食タイプ」、ペースト状の「とろみ食タイプ」の4種類に分かれています。メニューとしては当社介護食で人気の「こうや豆腐と海老の玉子とじ」を第1弾とし、今後数メニューを開発、発売して行く予定です。これらの商品は全て冷凍食品であり、当社の工場生産され、同じ食品分科会のメンバーである地元のスーパーと連携して販売しております。

長野県は、長寿日本一となっており、こうや豆腐もその一端を担っていると自負しております。今後は、日本の長寿社会を支える地域産業として発展するよう活動を続けてまいります。

やわらか常食タイプ



やわらかく小さめで、弱い力でも噛める食べやすいお惣菜です

きざみ食タイプ



ソフトなゼリーを使用し歯ぐきでもつぶせる食べやすいお惣菜です

ミキサー食タイプ



ソフトなゼリーを使用し舌と上あごでつぶせる食べやすいお惣菜です

とろみ食タイプ



とろりとしたペースト状の食べやすいお惣菜です

トピックス

FSSC22000認証取得

「FSSC22000」取得は、最近の食品偽装、大規模食中毒、従業員による意図的異物混入事件等で食に対する安全意識の高まり等、流通やお客様からの要求に応えるべく、2013年10月から取得準備にはいり、2014年3月に全社キックオフ大会が開催され、以降、各部門で取得活動を行ってきました。

活動は7S（※）活動の推進、品質安全マニュアルの作成に始まり、FSSC22000の大きな特徴であるHACCPプランと品質計画の実施、一般衛生管理プログラム（PRP）の再整備他、内部監査員養成研修を含めた教育等を実施してきました。

こうした全従業員による前向きな活動の結果、2015年1月13～14日の第一次審査、3月9～11日の第二次審査に合格し、本年5月13日晴れて認証取得が認可され、足掛け1年半に亘る努力を果らせることが出来ました。

現在の食品業界は安全に関する様々な問題が、メディアを通じて取りざたされており、消費者の食の安全に対する意識は以前とは比べものにならない程高まっています。そういった中、FSSC22000は「製品」のみならず、「原材料」や「物流」など、お客様のお手元に製品が届くまでの全過程に、食品安全を要求しているものであり、大手流通をはじめ、お客様の要求に応えられる仕組みが整ったわけです。

しかしながら、真の信頼を得るためには、7S活動を含めたこの仕組みを確実に実行・維持・向上させ、安心してお召し上がり頂ける製品を提供し続けることが重要です。その結果として、当社業績に大きく貢献するものと確信しております。

※7S活動とは、安全・衛生管理の基本となる5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）に「洗浄」「殺菌」の2つの「S」を加えた活動になります。

FSSC22000認証取得授与式

平成27年5月26日(火)午後1時に大阪本社において、一般社団法人日本能率協会より「審査登録証」の授与式が行われました。協会から理事・事務局長の武中和昭氏に來社いただき、食品関係の業界誌記者の方も多数出席の中、審査登録証授与式、木下社長と武中氏の対談、質疑応答が行われ、後日業界誌各誌に掲載されました。



日本能率協会武中理事より審査登録証を授与される木下社長

会社の概要 (平成27年9月30日現在)

商号 旭松食品株式会社
ASAHIMATSU FOODS CO.,LTD.
本店 長野県飯田市駄科1008番地
本社 大阪市淀川区田川三丁目7番3号
設立 昭和25年12月19日
資本金 1,617,844,105円
関連会社 旭松フレッシュシステム株式会社
青島旭松康大食品有限公司
青島旭松康大進出口有限公司
新鮮納豆株式会社（連結対象外）
従業員数 グループ人員：356名
当社人員：249名
主な事業内容 大豆加工製品の製造及び販売
主要製品 家庭用凍豆腐、業務用凍豆腐、
即席みそ汁・スープ類、
介護食等
主要な拠点
本店 長野県飯田市駄科1008番地
本社 大阪市淀川区田川三丁目7番3号
支店 東日本支店（東京都中央区）
西日本支店（大阪市淀川区）
営業所 仙台営業所（宮城県）
名古屋営業所（愛知県）
岡山営業所（岡山県）
福岡営業所（福岡県）
工場 天竜第一工場・天竜第二工場・
飯田工場・伊那工場
（以上 長野県）
研究所 食品研究所（長野県）
ホームページアドレス <http://www.asahimatsu.co.jp/>

取締役及び監査役 (平成27年9月30日現在)

代表取締役社長 木下博隆
取締役 蒲田充浩
取締役 兼 経営企画部長
取締役 兼 品質保証部長
取締役 兼 研究開発統括部長
取締役 兼 研究所長
社外取締役 藤森明仁
社外取締役 田中健一郎
常勤監査役 佐々木寛雄
社外監査役 伊坪眞
社外監査役 狩野拓一